

中堅層職員から始める組織変革の試み

藤原 哲(大阪公立大学 森之宮学務室 教務担当課長)

山本 博(京都橘大学 情報システム課 課長)

前河 泰正(大阪国際大学 IR 室 兼 共通教育機構事務室 課長代理)

佐藤 浩輔(大阪体育大学 庶務部学長室担当 チーフ)

講師略歴

【藤原哲】大学職員歴 30 年。庶務、教務、入試広報、学部事務、地域連携、経営企画、理事長室、人事・労務、新大学設置準備、新部局運営を経て、現職で新キャンパス運営を担当。私立大と公立大の両方で大学統合を経験。設置認可申請及び教育補助金申請を主担当で多数経験。組織の活性化や職員の能力開発に関心がある。学内外で研修講師を担当。SDC 養成講座修了(2024)。

【山本博】大学職員歴 31 年。情報システムを核に、教務・学生支援・IR など広範な現場を歴任。大学間転職や JICA 海外派遣を経て培った多角的な視点を強みとする。現在は情報システムの専門知見と「現場のリアル」を繋ぎ、教職員と伴走しながら組織開発や人材育成を推進。IT と人の両面から大学変革を支援する伴走型マネジャー。

【前河泰正】大学職員歴 20 年。入試広報、教務、教職、庶務、学長室などを経て現職。SDC 養成講座修了(2022)、認証評価団体への出向経験もあり、大学教務実践研究会内の「教務と国際の架け橋 PJ」や「教育企画支援 PT」に参画。愛媛大学 FD・SD チャンネルでのコンテンツ提供(「学修時間と単位数」他)にも参画。修士(法学)。

【佐藤浩輔】大学業界で転職を一度経験し、前職では図書館・庶務、転職後は経理・研究支援を経て現職に至る。SDC 養成講座修了(2018)、SD コーディネーター(SDC)認定(2023)、大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員。大学アドミニストレーションの専門性を磨き、「教育の場」をつくる実践を軸にした大学運営と教育を結ぶハイブリッド人材を目指している。

プログラム概要

法人・大学組織の中堅層職員は、基幹業務の遂行の中で、企画立案、部署間調整、教職協働、後輩育成など、多様な役割を担う存在です。一方で多忙な日常の中で働き方が固定化し、自らを客観的に振り返る機会も限られ、自身の役割や組織への貢献とのギャップに悩んだり、キャリアの方向性を見失うこともあります。

本研修では、自身の価値観や行動を整理し、どのような思考や行動が組織の改善や変革に影響するかを考える機会とします。理解を深めるために、困難な場面を想定したケースを素材として、中堅層職員が組織変革に関わる選択肢の可能性や影響力を議論します。中堅層職員から始める組織変革の可能性を探る実践型研修として、参加者間の対話を通じて、自身の長所や課題を再発見し、価値観や役割を再定義した上で、組織変革に繋がる行動計画を策定できることを目標にします。テーマに関心のある方の積極的な参加を心よりお待ちしております。

準備物・事前課題

1. 参加者の方には、事前に簡単なアンケートへの協力をお願いします。
2. 参加者の方には、事前に研修動画を視聴いただき、研修当日までに事前課題(ケース)の読み込みをお願いします。ケースは、大学の中堅層職員を主人公として、一定の条件・環境下で課題や問題解決を目指す仮想のシナリオです。複数のケース(例:AI 活用、教学 IR、組織間連携、新事業立上げなど)の中から当日の参加者で議論したい内容を選択し、グループ内で効果的

な対応方法や解決策などについて議論していただきます。講師陣からはケースの出題の意図や解説を行う予定です。

3. できればノートPC またはタブレットを利用できるようにご準備ください。

主な受講対象者

1. 主に、初任者から中堅層（主任・係長・課長代理等）までの職員を対象とします。
2. 大学改革・業務改善・教職協働・チームワーク向上・大学職員の能力開発(自己研鑽/部下育成)などのテーマに関心があり、他の参加者との対話や交流に積極的に協力してくださる方を歓迎します。

到達目標

1. 大学職員として、自身の業務における改善目標を言語化できる。
2. 大学特有の意思決定プロセスを理解し、主体的に取り組むための具体的なアプローチ方法を説明できる。
3. 所属大学の将来計画と自身の役割を結びつけて、具体的な行動計画を作成できる。
4. 研修参加者間の対話を通じて、自らの考えを深めて、組織変革や業務改善の取り組み方策を他者に説明することができる。